

# アイデア提案用紙

受 理 番 号

23—A012

標 題	広域避難場所等への石油ストーブ、自転車の配備について
想定される効果 (該当項目をチェック、複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービスの向上 <input type="checkbox"/> 事務の合理化 <input type="checkbox"/> 経費の節減 <input type="checkbox"/> 収入の増加 <input type="checkbox"/> 市のイメージアップ <input type="checkbox"/> 職員の意識変革 <input type="checkbox"/> 政策・事業の改善
提案を総括すべき課	
1 今のやり方(現状・問題点)……具体的に	
広域避難場所等へ四季に対応した機材が配備されていない 阪神淡路大震災を受け以下の提案をしたが実現されなかった「努力賞を受賞」 ・平成7年前後は、石油ファンヒーターが普及しました。 ・これに伴い石油ストーブ(しん式ストーブ)が不用品となり不燃物に出されるようになりました。 ・不燃物に出されたものを回収し大規模地震(風水害)等の災害時に再利用する。 ・提案年度直後に実施していればかなりの数量が確保できたと思われます。	
2 私の考え方(改善案)……具体的に	
広域避難場所・第一次開設避難所・第二次開設避難所に以下の機材を配備する ・使用可能な石油ストーブ(しん式ストーブ) ※ 大学の寮・大学生が寄宿するアパートを調査し卒業で不要となったものを無償で引き取る。 広報はだのを活用し全市域に無償で引き取ることを周知する。 ・放置自転車	
3 このように良くなります(改善効果)……数量等を具体的に	
効果額 (算定根拠)	・避難所の広さ、収容人員により配備個数を増減する。＝石油ストーブ(しん式ストーブ) ・避難所に5台の放置自転車を配備する。＝放置自転車
その他の効果	・特に阪神淡路大震災では冬季であり活躍した災害対策用品で、今回の東北地方太平洋沖地震では、ライフラインが長期にわたり復旧できず必要とされたが調達できなかった。これらを配備することで、冬季の暖房器具が確保でき、煮沸消毒や乳児用粉ミルク等の湯を沸かせ、また、沸かした湯で体を拭くことや調理器具等として幅広く活用できる。 ・自転車は、共用で連絡車として被災者が活用する。